

まちの話題

Machi no Wadai

市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。

また、みよし市ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。🌐<http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp>



3つの大会新記録が誕生

小学校陸上競技大会

陸上競技を通して体力の増進とスポーツ精神を養うことを目的に9月24日、第12回みよし市小学校陸上競技大会が豊田市運動公園陸上競技場で開催されました。開会式では選手を代表して、天王小学校6年生の市川航くんいちがわこうと亀井玲那さんかめいれいなが「これまでの練習の成果を十分に発揮し、小学校生活の最高の思い出の一つとなるよう自己ベストを目指して頑張ります」と力強く宣誓。その後、およそ300人の選手たちがトラック競技6種目とフィールド競技3種目にそれぞれ分かれ、優勝を目指して記録を競い合いました。練習の成果を発揮しようとして力を振り絞って競技に臨む選手たちに、会場へ駆けつけた同級生や保護者からは大きな声援と拍手が送られていました。また、今年は男子1500m、女子100m、女子400mリレーで大会新記録が誕生し、会場を沸かせていました。男子1500mで大会新記録を出して優勝した緑丘小学校の野川元希くんのがわげんきは「最後の一周がつかったのですが、去年の兄の記録を超えることができるとてもうれしいです」と笑顔で話していました。





郷土芸能を守り伝える

郷土芸能伝承活動発表会



古くから市民に親しまれている郷土芸能の伝承活動に参加し、熱心に練習している子どもたちの日ごろの成果を披露してもらおうと9月11日、サンアートで郷土芸能伝承活動発表会が開催されました。この発表会には新屋、西一色、東山、打越、三好上、三好下、福田、明知下、福谷行政区の子どもたちの他、模範演技を披露する三好上行政区、三好棒の手保存会、龍桜流りゅうおうりゅう和太鼓、三好太鼓の13団体およそ380人が参加。初めに、おの だげんじ小野田賢治市長が「子どもたちの郷土愛を育むとともに、郷土芸能を通して世代間の交流を深める機会にしてください」とあいさつしました。その後、舞台上では子どもたちが夏休み期間中から練習を積んできた笛や太鼓の演奏、華麗な舞などを緊張しつつも堂々と披露。巫女舞みこまいに参加した女の子の一人は「練習は大変でしたが、発表を成功させることができうれしいです」と笑顔で話していました。



さまざまな催しで福祉を紹介

総合福祉フェスタ



保健・医療・福祉・生きがいを一体とした総合福祉をより一層推進するきっかけにしようと9月17日、サンアートで総合福祉フェスタが開催されました。第1部の社会福祉大会では、長年にわたって市の福祉に貢献した人や70歳で自分の歯が22本以上残っている人などが表彰されました。続いて、第2部の総合福祉フェスタでは、ボランティア団体や福祉関連団体が日ごろの活動や施設の概要などを紹介。フェスタの最後に行われた、第3部のみよし市吹奏楽団シンフォニックウインズみよしとみよし少年少女合唱団によるふれあいコンサートでは、手話を交えて披露された「手のひらを太陽に」を始め、クラシック以外にもドラえもんやサザエさんなどの人気アニメのテーマソングなど耳なじみのある曲が披露されると、来場者も手話や手拍子で参加し、和やかな雰囲気でのコンサートになりました。



いつまでもお元気で

みよしの里敬老会



利用者の皆さんの長寿をお祝いするとともに、楽しいひとときを過ごしてもらおうと、特別養護老人ホームみよしの里で9月20日、みよしの里敬老会が行われました。初めに、みよしの里のスタッフから利用者の皆さんに記念品が送られると、続いて、老人ホームでボランティア活動をしている「藤祝の会」の皆さんが登場。「きよしのズンドコ節」や「恋の酒」などの曲に合わせて力強く、また優雅な踊りが披露されると、利用者の皆さんは手拍子をしながら楽しんでいました。最後に、小野田賢治市長が「これからも健康で長生きをしてください」とあいさつした後、市の最高齢である満101歳の

小木曾ヨシノさんと満100歳の谷端清子さん、満99歳で白寿の仲神たまさんに花束と敬老品を贈呈すると、皆さんは「ありがとうございます」とそれぞれ笑顔で答え、市長と握手を交わしていました。



いざ出陣!

みよしいいじゃん大学 「ほら貝を吹いてみよう」



戦国時代に出陣の合図として利用されたほら貝を実際に触ったり吹いたりすることで、当時の雰囲気を感じてもらおうとみよしいいじゃん大学「ほら貝を吹いてみよう」と題した講座が9月18日、サンアートで行われました。さまざまなイベントでほら貝の演奏を行っている山内勝実さんを講師に迎え、子どもから大人までおよそ20人が参加。初めに、ほら貝の歴史や種類についての説明を受けた後、初心者と経験者に分かれて練習を開始。初心者のグループでは、プラスチックの野球バットとメガホンを組み合わせて作ったものや水道管を切ったもので練習をしてから、ほら貝に挑戦しました。また、経験者のグループでは、山内さんから口の周りの筋肉をほぐすことや唇を振動させることなどのほら貝を吹く上でのポイントが説明されると、参加者たちはアドバイスを意識しながら真剣な表情でほら貝を吹いていました。



60歳以上の皆さんが孫たちと一緒にサッカーを楽しむことで、健康増進と体力向上を図るとともに、介護予防に関する知識を増やしてもらおうと9月22日、緑丘小学校体育館で世代交流サッカー健康増進教室が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、60歳以上の人とその孫など、合わせて47人が参加。名古屋グランパスのコーチ4人と県立三好高校のサッカー部員10人の協力の下、ペアでの簡単な準備体操やボールを使ったトレーニングを行ってから、ボール投げや障害物を上手に避けながらのドリブルなどに挑戦し、高齢者と子どもたちが一緒に体を動かしながら気持ちの良い汗を流していました。その後、子どもたちがミニゲームをする間、高齢者の皆さんは保健師による認知症予防に効果的なコグニサイズについての健康講座を受けました。

孫とサッカーに挑戦

世代交流サッカー健康増進教室



市内の小学生に認知症サポーターになってもらおうと9月23日、天王小学校で認知症サポーター養成講座が行われました。この講座には、社会福祉法人しょうじゅかい 翔寿会みなつらな おこの皆浦奈緒子さんと本井美佐緒もとみ さおさんを講師に迎え、児童と先生の合わせて91人が参加。まず、代表児童の2人が2通りの話し方と聞き方についての演習を行い、人と話すときに相手が話を聞いてくれないと孤独を感じることや話を聞いてもらえると安心することを学びました。続いて、認知症の人が起こしやすい行動や認知症の人とのコミュニケーションの取り方、間違った対応と望ましい対応などについてのDVDを見た後、児童たちは認知症の人をどのように助ければよいのかについて意見を発表しました。受講した男子児童の一人は「認知症の人には優しく接することが大切だと学んだので、これから実践していきたいです」と話していました。

認知症の人を支えよう

認知症サポーター養成講座(天王小学校)

